

保育所の持つ今日的課題という点から 次の三つの園をお訪ねしてみました。

自閉症児など障害児を積極的に受入れる
熊本市 つぼみ保育園

最初は障害を持つお子さんを大勢受け入れておられるつぼみ保育園を訪問しました。ここでは百二十名の園児の中に十四名の障害児を受け入れて、健全児と障害児の統合保育を实行されています。

私がお訪ねした時は、五名の園児

に言葉の訓練、足の訓練等、それぞれ楽しい遊具を使いながら個人指導をされています。十年程前知り合いの障害を持ったお子さんを預かったのが、この園の障害児保育のきっかけで、昭和五十三年からは熊本市より障害児保育の委嘱をうけ、現在に至っているとのことでした。健全児の中で障害を持った子供を保育していくことによって、健全児は障害を持った者への見る目が変わり、

思いやりの心が培われ、障害児は自分で経験し得なかったことを健全児とのかかわりの中で経験していくということが、統合保育のねらいである。園長先生は話しておられました。障害児保育は特に家庭の協力なしでは考えられませんが、この園では母親を交えて遠くは別府市から、その他市内の医療専門家を招いて、定期的に療育研究会が開かれているということです。個々の事例に基いた指導を受けることができ、保護者から大変喜ばれているとのことでした。

産休あけの先生の窮状を救うために設立された
人吉市 人吉乳児園

人吉乳児園は河川に面した洪願寺の静かなたたずまいの中にありました。

ここでは0歳、一歳の三十名の幼児が童謡の間こえる室内で遊んでいました。発達の目ざましい乳児期のお子さんですから心身の変化には細心の注意が払われ、給食等もひとりひとりの個人票により作られているということでした。



つぼみ保育園 園長先生自ら子供達と遊ぶ

この乳児園の保母さん方は、ほとんどが育児の経験のある方だそう。子供への語りかけも多く、しかもまめに体を動かされ、よくありがちな情緒の発達障害等はまず無いとのことでした。中学校の校長をされています。



人吉乳児園

先取りした運営がなされていることが窺えました。

以上三つの施設を訪問して思ったことは、どの施設も共通して、人の痛みを己の痛みとして把握することの出来る、福祉の原点とも言える心情をもって運営されているということでした。

限られた施設についてのみ紹介することになりましたが、県下六百二十六の保育所の、益々の発展、充実を期待したいものです。



た現理事長春木先生が、産休が明けて、赤ちゃんの保育に困っている先生の窮状を見て、乳児の保育所を始めたというものでした。

地域に開かれた保育園
球磨郡錦町 福島保育園

人吉市から二十分あまり、のどかな農村風景の中に福島保育園はあり、大きな遊戯室が目につきました。ほとんどが三世同居世帯ということもあり保育所に祖母の会がつくれ、母親共々おばあさんも保育参

観等の園行事や、育児相談に参加されるということ。家庭の中での子育てを共通した考え方でやってみらおう」というのが園のねらいで、大変効果を挙げているというお話でした。

地域とのコミュニケーションを大切にという園長先生の方針で、二百六十六平方メートルの広い遊戯室や運動場は、地域の人々のつどいの場として広く開放され、子供会、婦人会をはじめ、一般の皆さんも共用しておられるということです。

今後の保育所のあり方を考える時、この保育園は、一歩も二歩も時代を



福島保育園